スクマム！ワークを活用した チームビルディング手法の提案と、その実践

《COG2022 / One Team KUMAGAYA 推進委員会 / 熊谷市》

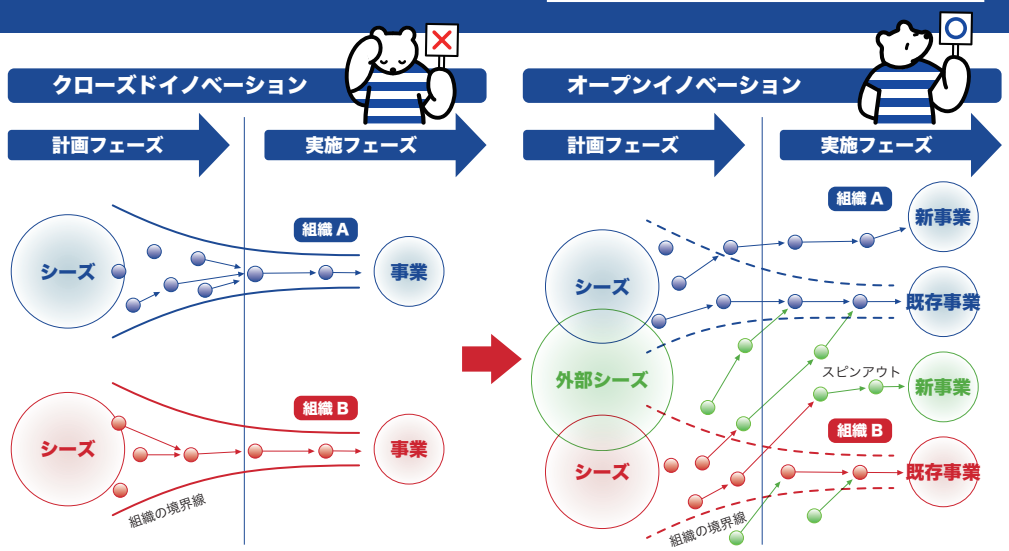
熊谷市の地域課題

スポーツ熱中都市を推進し、スポーツも市内経済も盛り上げたい！

スクマム！クマガヤとは、個性を活かした掛け算！

ラグビーのスクラムとクマガヤを掛け合わせた「スクマム！クマガヤ」は、ラグビータウン熊谷のスローガンとしてラグビーワールドカップ日本大会が開催された 2019 年に誕生しました。多様性のスポーツであるラグビーが持つ精神性を街づくりに活かし、真のラグビータウンを目指しています。

▲スクとマム



オープンイノベーションは多様性を許容することから、新たな価値を創造する。まさにラグビーそのもの。

提案の段階	提案の背景	提案の目的
1 《オープンイノベーションを生むワーク手法》	ラグビーワールドカップを契機に生まれた、スクマム！クマガヤの再整理が必要 …	様々な組織や場面で活用し、ラグビーのもつ精神性とデザイン思考を街づくりへ …
2 《ワーク手法の活用 ①》	上記の活動を推進する ONE TEAM KUMAGAYA 推進委員会の役割も再整理が必要 …	ラグビーワールドカップのレガシーを活かしつつ、民間活力を現状課題にフィット …
3 《ワーク手法の活用 ②》	スクマム！クマガヤ事業とスポーツコミッション事業の役割分担と再整理が必要 …	オープンイノベーションを生むワーク手法を COG をきっかけに実践へ …

地域課題に対して、３段階に分けて提案します。

ラグビーの集散の動きを、ワークショップ手法に応用！多様なシーズとリソースの共有がオープンイノベーションを生むチームビルディングに

今回提案する『スクマム！ワーク』は、チーム内のシーズとリソースを見通し、さらにそれらシーズを便宜的にラグビーのポジションに配置することでチーム内での優先順位を共有することが可能となります。ラグビーが持つ多様性を街づくりに展開するという『スクマム！クマガヤ』の概念を、具体化したワーク手法です。

「妄想しよう！」から「もう！そうしよう！」へ

『スクマム！ワーク』をまとめたシーズシートは、その組織のやるべき事ではなく、あるべき方向を示します。個性を活かしながら、組織としての方向性を共有し、お互いを知った上で行動する。まさにチームビルディングに、デザイン思考を持ち込むことが可能となります。さらにラグビー憲章に謳われる５バリューが、チームに知性を与えます。

品位（ひんい）・情熱（じょうねつ）・結束（けっそく）・規律（きりつ）・尊重（そんちょう）